

令和4年度 第2回 茨木市障害者地域自立支援協議会全体会

開催日時	令和4年12月20日(火)午後1時30分～午後3時35分
開催場所	茨木市役所南館10階大会議室
進行	藤岡副会長
出席者	<p>【協議会委員】 藤岡委員、森脇委員、三浦委員、吉岡委員、辻委員、山内委員、福永委員、天野委員、藤田委員、佐藤委員、森川委員、遠藤委員</p> <p>【オブザーバー】 河原商工労政課長、西浦長寿介護課主幹、平野人権・男女共生課参事、和田学校教育推進課参事</p>
欠席者	加藤委員、今村委員、戸谷委員、山口委員、山本委員
議題	開会 ①研修・啓発プロジェクトチーム報告 ②地域生活支援拠点等プロジェクトチーム報告 ③障害当事者部会報告 ④地域移行・地域定着部会報告 ⑤福祉総合相談課報告 ⑥その他 閉会
資料	相談支援事業所等の報告用資料 「これからどこに住もう？」のリーフレット 「おにも見にクルアート展」チラシ

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局（藍野・ 瀧山氏）	<p>Ⅰ 開会</p> <p>定刻となりましたので、令和4年度第2回茨木市障害者地域自立支援協議会全体会を開催いたします。</p> <p>本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます自立支援協議会事務局、相談支援センター藍野療育園の瀧山と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し、マスクを着用したままの説明や説明の簡略化等により、2時間以内の会議時間になるよう、短縮に努めて開催してまいります。御協力よろしくお願いいたします。</p> <p>最初に、委員の出欠について御報告させていただきます。</p> <p>茨木市障害者地域自立支援協議会規則第5条におきまして、本協議会会長を務めていただいております関西福祉科学大学教育学部教育学科教授の加藤委員ですが、急病のため本日は欠席されております。なお、加藤委員から挨拶文を頂戴しておりますので、代読させていただきます。</p> <p>「令和4年度第2回全体会の開催に向けて おわび</p> <p>この度は、藤岡副委員長はじめ委員の皆様、事務局、庁内アドバイザー各位、及び本日御出席の皆様には、私事により多大なる御迷惑をおかけすることとなりましたこと、大変申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。</p> <p>第2回全体会を、茨木市にお住まいの障害のある人にとって実りあるものとするべく、少しでもお役に立てればと思っておりましたが、それが一つも果たせずじまいで残念です。</p> <p>それでは、第2回全体会が有意義な会となることを祈念して、お詫びの言葉とかえさせていただきます。」</p> <p>加藤委員の他に、今村委員、戸谷委員、山口委員、山本委員が欠席されております。</p> <p>開会に当たりまして、配席図の順に委員の方々、及びオブザーバーの方々の御所属とお名前を御紹介させていただきます。恐れ入りますが、お名前をお呼びいた</p>

	<p>しましたら、御起立いただき、一言頂戴できたらと存じます。</p> <p>特定非営利活動法人自立生活センターほくせつ24の藤岡委員です。藤岡委員には、副会長を務めていただいております。藤岡委員には、本日、会長の代理として会議の進行をお願いいたします。</p>
藤岡副会長	<p>御紹介にあずかりました、ほくせつ24の藤岡です。</p> <p>いつも会長の隣で座っているだけだったのですが、今日は初めて司会進行をするということで不安でいっぱいです。頑張りますのでよろしくお願いいたします。</p>
事務局（藍野・ 瀧山氏） 三浦委員	<p>市民委員、三浦委員です。</p> <p>三浦でございます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（藍野・ 瀧山氏） 森川委員	<p>茨木障害フォーラム、森川委員です。</p> <p>森川と申します。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（藍野・ 瀧山氏） 藤田委員	<p>茨木公共職業安定所、藤田委員です。</p> <p>藤田でございます。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（藍野・ 瀧山氏） 佐藤委員	<p>茨木・摂津障害者就業・生活支援センター、佐藤委員です。</p> <p>皆さん、こんにちは。佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局（藍野・ 瀧山氏） 森脇委員	<p>市民委員、森脇委員です。</p> <p>森脇です。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（藍野・ 瀧山氏） 天野委員	<p>茨木支援学校、天野委員です。</p> <p>天野です。よろしくお願いいたします。</p>

事務局（藍野・ 瀧山氏） 福永委員	茨木市社会福祉協議会、福永委員です。 福永です。どうぞよろしく申し上げます。
事務局（藍野・ 瀧山氏） 山内委員	大阪府茨木保健所、山内委員です。 よろしく申し上げます。
事務局（藍野・ 瀧山氏） 辻委員	障害当事者部会、辻委員です。 辻です。よろしく申し上げます。
事務局（藍野・ 瀧山氏） 吉岡委員	障害当事者部会、吉岡委員です。 吉岡と申します。よろしくお願ひいたします。
事務局（藍野・ 瀧山氏） 遠藤委員	障害福祉サービス事業所連絡会居宅介護部会、遠藤委員です。 遠藤です。よろしく申し上げます。
事務局（藍野・ 瀧山氏）	続きまして、オブザーバーの紹介をいたします。 長寿介護課 竹下課長の代理の西浦主幹です。
西浦長寿介護 課主幹	西浦です。よろしく申し上げます。
事務局（藍野・ 瀧山氏） 和田学校教育 推進課参事	学校教育推進課、梶西課長の代理の和田参事です。 和田でございます。よろしく申し上げます。
事務局（藍野・ 瀧山氏） 河原商工労政 課長	商工労政課、河原課長です。 河原です。よろしくお願ひいたします。

<p>事務局（藍野・瀧山氏）</p> <p>平野人権・男女共生課参事</p> <p>事務局（藍野・瀧山氏）</p>	<p>人権・男女共生課、松山課長の代理の平野参事です。</p> <p>平野でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>本日は、9名の方が傍聴されていることを御報告いたします。</p> <p>また、茨木市障害者地域自立支援協議会の議事ですが、正確な記録を行うため、音声を録音させていただきます。委員の皆様が御発言の際には、係の者がマイクをお持ちしますので、マイクを通しての御発言をお願いいたします。</p> <p>議事につきましては、原則公開といたします。ただし、個別のケース等について、協議・検討を行う場合は、個人情報保護の観点から非公開として取り扱います。</p> <p>それでは、会議を始めさせていただきます。</p> <p>最初に、会議資料等の確認をさせていただきます。本日の会議資料といたしまして、委員の皆様には事前に送付させていただきました全体会資料、参考資料として送付させていただきました地域移行（退院・退所サポート）の御案内「これからどこに住もう？」のリーフレット。次に、お席に置かせていただいております配席図と「おにも見にクルアート展」のチラシ。以上の資料をお持ちでしょうか。揃っていないようでしたら、係の者がお持ちいたしますので、挙手をお願いいたします。</p> <p>それでは、当協議会全体会を開催させていただきます。</p> <p>ここからの進行は藤岡副会長に引き継ぎます。</p> <p>藤岡副会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>先ほどもお伝えしたように、初めて進行させていただきますので、拙い部分がきつとあると思いますが、皆様に御協力いただきながら進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事前に事務局から資料を送らせていただいているかと思います。資料は既にご覧いただいていることとして進めさせていただきます。</p> <p>次第に沿って進めていきます。</p> <p>では、議題①の「研修・啓発プロジェクトチームの報告」です。</p> <p>事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局（ゆうあい・本多氏）</p>	<p>自立支援協議会事務局、相談支援事業所ゆうあいの本多と申します。研修・啓発プロジェクトチームの今年度の活動内容を報告させていただきます。</p>

資料は、1ページからの資料1をご覧ください。

研修・啓発プロジェクトチームは今年度、『地域で暮らそう「災害時における障害のある方への支援について」』というテーマで、啓発のための動画の作成と研修会を実施いたしました。

まずは、最初に作成した10分ほどの動画を皆さんに御視聴いただきたいと思います。

すみません。副会長はお席の移動をお願いいたします。

(動画再生 開始)

(動画再生 終了)

ありがとうございました。副会長はどうぞお席にお戻りください。

では、報告を続けさせていただきます。

資料の3ページからをご覧ください。

今年度の取組に至った背景・目的といたしましては、近年、予想を上回る災害が毎年日本各地で起き、大きな被害をもたらしています。記憶に新しいところでは、平成30年6月の大阪北部地震や9月の台風21号です。

自立支援協議会においても、災害に対する取組や研修を行ってきました。今年度は、災害時において、「障害のある方にどのような配慮や支援が必要か」を支援関係者だけでなく、市民の方にも障害理解を深めていただけるよう啓発していくことを目的に掲げ、併せて「避難所における障害者支援ガイド」の啓発にも協力していくこととしました。また、今年度の実施に当たっては、自立支援協議会 研修・啓発プロジェクトチームの企画書の活動方針、目的に合致することを前提として、例年どおりに障害福祉サービス事業所連絡会による周知活動などの協力や企画立案の段階から障害福祉センターハートフルの参画を得て、オンライン研修会を実施する上での専門的な知識技術、機材等の提供を受けました。

取組内容としましては、具体的には「地域で暮らそう『災害時における障害のある方の支援について』」というテーマで動画作成と研修会を実施しました。

動画作成においては、「茨木市水害・土砂災害ハザードマップ」、「防災ハンドブック」、「避難所における障害者支援ガイド」を引用、参照し、災害に対する備えから避難行動、避難所での支援におけるまで、障害のある方にどのような配慮、支援が必要なのかを10分ほどの動画にまとめました。ただいま御視聴していただいたものです。完成した動画は、研修会において参加者に視聴していただき、今後は地域や

藤岡副会長	<p>事業所での防災研修などに役立てていただけるようDVDで貸出できるように準備しています。</p> <p>また、研修会には倉敷地域基幹相談支援センター施設長で岡山県相談支援専門員協会会長である永田 拓氏を講師としてお招きし、平成30年7月の西日本豪雨での被災体験から障害のある方への支援について御講義いただきました。参加者は会場とZoomによるオンライン参加で合わせて90名以上の参加があり、内訳としては、支援関係者以外にも自主防災会、民生委員、当事者、行政関係の方々でありました。アンケートの結果から、大変よかったという感想を多数いただき、永田氏の貴重な体験談に深い感銘を受けるとともに、地域や事業所での災害への取組を新たに意識するという感想が多くありました。同じ相談員として、永田氏の体験に自らを重ね、相談員としての在り方を振り返るような感想もありました。</p> <p>研修会の模様については、参加できなかった方にも見ていただけるよう、期間限定で動画配信する予定とありますが、ただいま動画配信をしております。新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中ではありましたが、感染防止の対応を十分に取り、研修会を終えることができました。</p> <p>なお、研修会のためのチラシや動画の作成に当たっては、市内の就労継続支援B型事業所に依頼しました。</p> <p>次年度以降についても、新型コロナウイルス感染症対応に配慮しながら、市民、支援関係者に障害福祉に関する情報発信や障害に関する理解を深めていただけるように取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>今年度の報告につきまして、御意見、御質問等よろしくお願ひいたします。</p> <p>また、併せて次年度の参考にさせていただくため、障害に関する身近な困り事や理解を深めたいことなど、研修や啓発をしてほしい内容があれば助言いただき次年度の参考にさせていただきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>報告は以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまの報告につきまして、御意見や御質問などありましたら手を挙げていただけたらと思います。</p> <p>また、御意見いただきたいこととして、来年度の研修・啓発で取り組んでほしいテーマや皆さんでこういったことの理解を深めたいというようなことがあれば、手を挙げて御意見いただけたらと思います。</p>
-------	--

<p>辻委員</p>	<p>もし、研修会に参加された方がいらっしゃったら、感想などを聞かせていただけたらと思います。どなたかいらっしゃいませんか。</p> <p>辻委員、お願いします。</p> <p>辻です。このローズWAMで開催された永田 拓さんの研修会に、参加をさせていただきました。</p> <p>何年か前に岡山の真備の辺りで、雨がすごく降り過ぎて、講師の方も本当にぎりぎりまで援助しようとされたんですが、最終的にはもうその親御さんが亡くなってしまふということで、すごく後悔されていて、大雨や洪水が急に起こるとどうしたらいいか分からない、ましてやちょっと、その方は日本人じゃなかったんです。たしか。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>知的障害がある方でしたね。</p>
<p>辻委員</p>	<p>それで、余計に伝達しにくかったらうなと思います。</p>
<p>事務局（ゆうあい・本多氏）</p>	<p>感想でした。</p>
<p>事務局（ゆうあい・本多氏）</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>私も研修会に参加しました。さっき流れた動画を研修会でも流してたんですけど、永田さんが、「もしこの動画をその災害の前に見ることができてたら、大分違ってた」とおっしゃっていたのがすごく印象的でした。「小学校に避難したらいいよ」と言ったけど、「どこの小学校か分からない」とか、「何々小学校だよ」と言っても、「その小学校はどこにあるのか分からない」という感じで言われてしまったということで、日頃からいかに伝えられてなかったことをすごく後悔したとおっしゃっていました。</p> <p>ほかに御意見はありませんか。</p> <p>吉岡さん。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>当事者委員の吉岡です。ちょっと難しいかもしれないですけど、避難所に行く間にネットの環境があつたらいいのかなと思いました。それが感想です。</p> <p>当然のことながら、障害のある方にとってどのような配慮が必要かというのも障害種別によって違うんじゃないかなとは思っております。以上です。</p>

藤岡副会長	<p>ありがとうございます。1回目の全体会のときに、たしか、さっき動画に出てきたこの「避難所における障害者支援ガイド」が配られたと思うので、これはまた皆さん、周りの方にもアピールしていただけたらと思います。勝手に宣伝していますけれども、そう思います。</p> <p>ほか、何か御意見とか、来年の研修会とか啓発でこんなテーマでやってほしいことはありますか。今年が災害だったけれど、来年はこんなテーマで研修会してほしいとか。</p> <p>遠藤さん。</p>
遠藤委員	<p>研修のほうですけれども、この永田さんのお話、私11月10日には見られなかったので、その後、動画を配信していただいています、今の説明があったと思うんですけれども、配信終了は1月末でしたっけ。</p>
事務局(ゆうあい・本多氏)	<p>はい、1月31日までです。</p>
遠藤委員	<p>私この間、拝見させていただいて、今、事業所連絡会ではBCPの作成を、会員の事業所さん宛てに強化して、そこの取組を重点的にやっているところです。永田さんのお話を聞いていて心に刺さることがたくさんありました。やっぱりそういう中でも永田さんおっしゃったのは、BCPがないと、全然その災害に対して対応ができないということをおっしゃっておられて、最近、BCPのことをずっとやっていて、BCPってすごく範囲が広くて、いろいろ決めないといけないことたくさんあるわけですね。そういうものを一つひとつ検討して行って、マニュアル化していく作業が本当に大変なんですけど、永田さんのお話を聞いて、最終的にこれを誰のためにやっているかというところで、その利用者とか家族さん、一日も早くその事業所が復旧して通常のサービス、平時のサービスを提供できるというようなところを目指してやっていくというのを聞いて、ちょっとはっとしたというか、これもう自分たちのためにやっているんじゃないくて最終的には利用者さんや御家族さんのためにやっているんだなというふうに思うと、ちょっと何かBCPも前向きに頑張ってみようかなというふうなところで、すごくいろんな気づきがあって、本当にこの研修、動画配信していただけたということなんですけれども、これからまた機会あるごとにぜひこの永田さんのお話、どこかで紹介できればなというふうに思っています。以上です。</p>
藤岡副会長	<p>ありがとうございます。</p>

事務局（ゆうあい・本多氏）	<p>あと、動画配信の見方って、委員の方、皆さんはご存じですか。それぞれ見たい人はどこかに問合せしたらいいんでしょうか。</p> <p>1月31日まで動画配信をしておりますので、御興味のある方は、相談支援事業所ゆうあいまでお問合せください。URLのほうをお伝えしたいと思います。</p>
藤岡副会長	<p>もし委員の方で動画配信を見たいという方は、ゆうあいにご相談させていただいたらいいかなと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>御意見なければ、この議題は終わりにしようかなと思うんですが、いかがでしょうか。大丈夫ですか。</p> <p>続きまして、議題②の「地域生活支援拠点等プロジェクトチーム報告」について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局（菜の花・舟木氏）	<p>こんにちは。支援センター菜の花相談員の舟木と申します。</p> <p>資料につきましては、7ページ以降、議題②（資料②）地域生活支援拠点等プロジェクトチームの報告というところからです。本文は9ページからになります。</p> <p>今年度、令和4年度から新しくできました、これも本当に日頃の備えということでは共通なんですけれども、障害の方とか、家族の方の高齢化とか、重度化による生活の変化に備えて準備をし、地域で暮らし続けられるように支援とか地域のつながりをつくっていく、そういった取組について、そこから見えてくる課題を整理する、そういったプロジェクトチームです。</p> <p>今回は4月から始まったところですので、その途中経過を報告、発信の場として報告させていただきます。</p> <p>令和4年度の4月から5つある機能のうちの相談と緊急時の受入れ・対応の機能ということで、テーマを絞って話合いをしています。</p> <p>緊急時の対応の必要な方というのが、介護者などが病気などで介護できなくなる、そういったときに短期入所の施設で受入調整など事前の準備とか必要な対応を行えるようにしていく、そういった準備に関しての機能です。</p> <p>この後、大きく3つに分けてまとめさせていただいていますけれども、まずは今年度、最初、緊急時の対応の必要な方がどれくらいおられて、今、茨木市内でどのような現状で暮らされているのかということを知ることから始めています。</p> <p>調査のうちの1つ目です。5つの圏域、茨木市東・西・南・北・中央と5つに地域を分けています。その地域ごとに現状を把握していくということから始めています。</p>

緊急時の対応に必要な世帯が地域にどれくらいいらっしゃるかということで、全員にすると数がすごかったので、少し絞って調査をしています。身体障害者手帳・精神障害手帳1級、療育手帳Aをお持ちの方や、8050ということ意識して、50歳以上64歳以下の方、家族と同居されている方ということで絞って、エリアごとに数を出していきました。

そうしたところで、合計で3,778名が、ということでリスト化するとそれだけの人数になりました。その後、委託の相談支援事業所が把握している方で10分の1、309名の方は相談支援事業所が把握しておりました。さらにその中に緊急度のより高い方を抽出するという手法を取りまして、その結果、各圏域から緊急対応の必要な対象に挙げたのが合計で53名、資料12ページにグラフとしてまとめております。東・西・南・北、各エリアに均等にいらっしゃるという結果でした。

続いて、障害支援区分でいいますと、12ページから13ページにかけてグラフ化しています。

続きまして、13ページのグラフ5にありますように、障害支援区分では、区分4、区分6と重度の方がいらっしゃいますが、その中で13ページのグラフ5に「区分なし」という方もいらっしゃいます。これは、障害福祉サービスに何もまだつながっていない可能性が高い方、この方が多いんじゃないかなということで着目いたしました。

続いて、10ページの資料に移ります。

計画相談支援を利用されている方は、まだ37%で20名ほどでした。グラフ化はしていないんですが、主な介護者はお母様という方が多くて、介護者の方もやはり70代から90代という高齢の方でした。この世代の方の傾向なのかもしれませんが、介護者自身がつらくても支援を求めない、自力で介護しながら、周りのほうが危機感を募らせているというケースが多くありました。

続いて、調査の2つ目です。事業所連絡会と協力いたしまして、日中活動先の事業所でも緊急対応が必要と心配している方を挙げていただきました。

その結果、事業所は42名の方が挙がりました。その中では、50歳代未満の方も含まれています。計画相談を利用されている方は半数で21名の方でした。1つ目の調査で挙げました圏域ごとに把握した対象の方と重複している方が3名でした。やはり、その中でも医療的ケアの必要な方とか、家族が病気とか、ひとり親世帯であったり、御本人さん・親御さんの状態が背景にあるということが理由でした。

日中活動先につきましては、実際に御本人さんのこととか家族状況をよく知っておられますので、今後短期入所を利用するに当たっては、この日中活動先と短期入所の事業所が情報をしっかりと共有して連携を取っていくということが大事なこと

<p>藤岡副会長</p>	<p>かなということでもまとめています。</p> <p>そして、3つ目ですね。プロジェクトチームで挙げた課題を整理していききました。</p> <p>計画相談の導入がまだされていない方が多くて、検証の1つ目で53名のうちで委託相談支援事業所が急ぎ対応をしないといけないなと考えている半分の22名の方は、やはりスピードが必要と考えています。ただし、まだ計画相談がその中でも導入されていない方が多かったり、サービスを利用されていらっしゃらない方が多いので、順次、対応を急ぐ方への計画相談の導入とか、支援のサポートが必要だなということでも課題としてまとめています。</p> <p>続いて11ページ目です。</p> <p>さらにまとめています。計画相談の導入のそういった意味での優先順位の検討と相談支援専門員をやはり確保していく課題があるのではないかと、それと短期入所事業所の部屋数の確保、加えて感染症対策とか、医療的ケア対応する地域も少ないですので、医療機関との連携というような課題も挙がってきています。また、訪問看護との連携も必要ということが課題として出てきています。</p> <p>それと、最後、緊急時の受入れ・対応マニュアルというものを同時に作成しています。大項目の2番です。</p> <p>計画相談の担当者が御本人、家族、在宅等の支援者と一緒にもしものときに備えて共有すべき事項をまとめるプラン、「もしものときプラン」というものを作成しています。第1回全体会の中でも報告させていただきましたが、これを一緒に作って、一緒に準備を進めていくということが大事だということで意見をまとめています。</p> <p>今は、現在は現状を把握して、対象者の数とか対象者層も数多くいらっしゃるのか、少ないのか、漠然としたものから具体的にしていくというのがこの上半期の取組でした。</p> <p>今後、年度末に向けて、今後の取組のさらなる一歩というのをもう少し工夫できることがないのか、住み慣れたまちで暮らし続けるための地域づくりというのを提案できるように、下半期まとめていきたいと思っております。</p> <p>以上、中間報告でした。</p> <p>ありがとうございました。地域生活支援拠点等プロジェクトチームは今年できたばかりのプロジェクトチームなんですけれども、報告していただきました。</p> <p>ただいまの報告について、御意見とか、御質問とかございましたら、手を挙げていただけたらと思います。いかがでしょうか。</p> <p>森脇委員、お願いいたします。</p>
--------------	---

森脇委員	<p>すみません、森脇です。</p> <p>今回、このように実態把握ができた、目で見られたというのは、とても分かりやすかったですし、どのぐらい優先的に支援が必要な方がいるかということも分かって、すごくよかったなというふうに思っています。</p> <p>そして、11ページの3行目の計画相談導入の優先順位の検討と相談支援専門員の確保というふうに書かれています。それは、もちろん、優先的に支援が必要な方もそうなんですけれども、私は、発達に課題がある保護者の困り事を話す会を開催しておりまして、学齢期の保護者さんも同じように相談支援員さんをつけてほしいというお話を言われます。相談支援員さんはどうしてもかなわない、どうすれば相談支援員さんをつけることができますかというような質問が多くあります。まず保護者さんは、100人待ちというふうに言われたということも聞いております。そのたびに私たちは、ちょっとスタッフとして回答に困っています。</p> <p>そういう形で、相談支援員さんが必要だという方に、今、ちょっと相談支援員さんがつけられない、でも、ほかの形でサポートだったりとか、情報提供をしてもらえる場所だったりとか、そういう人だったりとかいうことを知りたいと思っているんですけども、お願いできますでしょうか。</p>
藤岡副会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>特に児童の方は生活相談、児童相談ついていない方が多いですけど、いざ困ったときに行くところとか、こういうところに行けばいいよというのがもしあれば、御案内できるものがあれば、教えていただけたらと思います。</p>
事務局（福祉総合相談課名越係長）	<p>福祉総合相談課、名越と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>今、委員がおっしゃったように茨木市におきまして、相談支援員が少ないというのは、現状把握しております。市としましても今、相談員を増やすために補助金制度をつくりまして、相談員を増やすような施策のほうは取り組んでおります。</p> <p>現状の相談場所としましては、市のほうは障害者相談支援センターをお住まいの地域に設置をしておりますので、まずそちらのほうに御相談いただくこともいいと思っております。以上です。</p>
藤岡副会長	<p>お住まいの地域ごとに相談支援センターがあるので、そちらにということですね。分かりました。</p> <p>ほか何か御意見とか御質問とかございますでしょうか。</p>

<p>辻委員</p>	<p>辻委員、お願いします。</p> <p>辻です。13ページの真ん中の支援区分の、何か支援されている方がほとんどですけれど、その「ない」というのが11人いらっしゃるんですが、このないという方も「あり」になるんですかね。</p> <p>グラフ⑤の支援区分、それぞれ区分ごとにあって、なしというのが11人いらっしゃるというふうに書いてあるんですが、その方も守られる範囲に含まれていくんでしょうか。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>13ページの真ん中の図のグラフ、支援区分が「なし」という方がいらっしゃるんですけども、そういう方でも何かしら守られているものがあるんでしょうかということなんですが、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局（菜の花・舟木氏）</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私たちも本当に着目しているところで、実際に支援区分が必要なサービス以外のサービスを使っていらっしゃる方もいらっしゃれば、本当に何も使っていらっしゃらない、相談員が何となく知っている、気になっている世帯ということで、何かしらこれから関わりが持てないだろうかと思っている世帯の方もいらっしゃいます。引き続き、委託相談支援事業所、地域の相談支援事業所が訪問したり、困り事を聞いていたりというのが、今継続してできることで、行く行く緊急時でもし一時的にでも短期入所をおおうということであれば、そこから支援の説明であったりとか、御本人さんの意思決定に向けての何かとか、ニーズをもう少し聞いていくという関わりを委託相談支援事業所のほうから働きかけていこうかというのが今の話し合っている形なので、何らか支援につながるというなど、これからの関わりが必要という視点で見えています。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>ありがとうございます。ほかに御意見、御質問ございませんでしょうか。</p> <p>大変有意義な検証をしていただき、ありがとうございました。</p> <p>では、次の議題に移らせていただきます。</p> <p>続きまして、議題の③です。「障害当事者部会報告」です。事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局（ほくせつ24・山下氏）</p>	<p>当事者部会担当のNPO法人自立生活センターほくせつ24の山下と申します。よろしくお願いいたします。</p>

資料としては15ページから24ページをご覧ください。

まず、この資料ですけれども、今回載せているのは、アンケート結果の報告になります。

このアンケートをなぜしようと思ったかという、目的ですが、ヘルプマークが施行されて5年経過し、このヘルプマークがどれだけ知られているのか、持っている人の思い、持っている人や持っていない人の思いを知るためのアンケートとして活用することにしました。

対象者としては、資料にもありますように、当事者の方を対象としています。ただ、回答者には、支援を行う方や保護者なども含まれています。また、どのようなアンケートの項目だったかという、まず、居住地、対象者の年代、障害の有無、ヘルプマークを知っているまたは知らない、ヘルプマークをつけているまたはつけていない、ヘルプマークをしていてよかった点や悪かった点、まちの人の理解についてヘルプマークをしている人もしていない人も、もっとこうしていったらヘルプマークを知ってもらって、いざとなったら理解してもらえそうな世の中というか、そういうまちにできるかということでアンケートを行いました。

このアンケートは、7月から8月いっぱいにかけて行いまして、資料にもあるように106の茨木市内の事業者、日中活動系サービス、生活介護、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援、自立訓練など多くの方に回答いただきまして、392名の結果としています。

また、お手元に示している資料はほんの一部になりますが、編集したものになります。ただちょっと多岐にわたりますので、皆さんゆっくりご覧いただけたらと思います。

特に意見の多かったものを資料の中には囲みで表示しています。その中で、ヘルプマークを知っている方が4割、知らない方が6割おられ、実際に使用している方は3割にも満たないことが分かりました。また、自由記述やよかった点、悪かった点などの意見も含めて回答にあったのが、「特に困ることがない」や「障害を知られたくない」という理由が、数的には多かったかなと思います。

そういった理由を除いて、当事者部会が着目したのが、「このヘルプマークがどこでもらえるか分からなかった」、「自分に当てはまるのかが分からなかった」という意見が多数あって、今後、この当事者部会の取組として、ヘルプマークを正しく理解してもらった上で、必要なときにどこでもらえるのか、どういったことに使える、使えるといったらあれですけれども、これ持っていて何か支援が必要なときに周りにシェアするためにPRをもっと周知をしていきたいと考えています。

藤岡副会長	<p>また、本日参加の委員の皆さんにおかれましては、どういったことがPRにつながるかというような意見をお聞かせいただけたらと思いますので、よろしくお願い致します。</p> <p>簡単ですけども、アンケートの集計結果の報告については、以上となります。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>当事者の方からとか、御家族からたくさんの意見をいただくことができました。ありがとうございました。</p> <p>では、ただいまの報告につきまして、御意見とか御質問とか、あと、ただいま投げかけがあったように、どのようなPRがあれば皆さんに持っていただけるかなというようなこと、御意見いただけたらと思います。いかがでしょうか。手を挙げていただけたらと思います。</p> <p>ヘルプマークの実物って、皆さん、どんなものかご存じですか。皆さん知っていますかね。赤いカードでハートが書いてあるもの。知らない方はいらっしゃらないですかね。分かりました。</p> <p>結構知らない方が当事者さんでもいらっしゃって、その中でも自分が当てはまるか分からなかったとか、どこに行けばもらえるのか分からなかったみたいな意見が多く見られました。</p> <p>どうぞ。</p>
辻委員	<p>市役所の今は総合何とかに変わったんですかね。</p> <p>福祉総合課に行けばもらえるんですか。</p>
藤岡副会長	<p>市役所でいうとどこに行くとももらえるんでしょうか。障害福祉課ですかね。</p>
事務局（障害福祉課堀内係長）	<p>障害福祉課計画推進係長の堀内です。</p> <p>ヘルプマークにつきましては、茨木市役所と障害福祉センター・ハートフルでお配りをしています。</p> <p>このヘルプマークですけども、大阪府の事業になりまして、配布場所としましては、大阪府庁、各市町村の障害福祉担当課、府内の各保健所でお配りをさせていただいております。</p>

<p>辻委員</p>	<p>在庫大丈夫なんですか。</p>
<p>事務局（障害福祉課堀内係長）</p>	<p>在庫につきましては、ホームページで在庫をご確認いただけます。あとはお問合せいただいても在庫の確認はさせていただきますので、もし必要であれば、お問合せをいただければと思います。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>市役所でいうと、障害福祉課に行ってくださいか、問合せしてくださいということですね。</p>
<p>事務局（障害福祉課堀内係長）</p>	<p>はい、障害福祉課にお越しください。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>ほか何か御意見とか御質問とかありますか。 もっとうこういうこと聞いてほしいとかないですか。大丈夫ですか。</p>
<p>事務局（ほくせつ24・山下氏）</p>	<p>あればうれしいなと思ったんですけど、なければ、これで終わりたいと思います。 ありがとうございます。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>対象になる方にもらう方法とか、もらえる場所というのを教えてもらったりとか、あとは当事者さん含め、市民の方にも正しい情報とか理解とか、そういうのが伝わっていけばいいかなと思います。 特になければ、これで終わりにしましょうか。ありがとうございます。 会議が1時間ちょっと超えてきたので、ここで10分間休憩を取らせていただこうかなと思っております。 今、37分ぐらいですので50分まで休憩とさせていただきます。よろしくお願ひします。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p style="text-align: center;">休憩 午後2時37分 再開 午後2時50分</p> <p>皆さんおそろいでしょか。 それでは時間となりましたので、後半の議事を進めてまいります。 議題の④です。「地域移行・地域定着部会報告」について事務局から説明をお願いいたします。</p>

<p>事務局（ひまわり・間部氏）</p>	<p>自立支援協議会事務局、相談支援センターひまわりの間部と申します。地域移行・地域定着部会の活動についてお話しさせていただきます。</p> <p>資料は25ページから29ページになります。</p> <p>地域移行・地域定着部会では、長期入院や施設入所をされている障害のある方が、地域での生活を選択できるよう、安心して暮らせる地域をつくることを目的として活動をしています。</p> <p>ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、現在、病院・施設では外出や面会に制限がかかり、これまでのように訪問しての活動が難しい状況になっています。最近では、会議やイベントなどいろいろなことが緩和されていますが、病院や施設では、今でも自由に面会や外出ができない状況が続いています。</p> <p>活動が思うようにできない中、これまでの活動を振り返り、地域移行を進める際の課題や、コロナ禍でもいろいろとできることがあるのではないかという意見が挙がりました。</p> <p>今回、地域移行・地域定着を進めるため、また、障害のある方が安心して地域で暮らしていくために、部会として、課題にどのように取り組んでいくのか、また、どのような取組があればいいのか、それぞれの機関の立場から御助言をいただければと思います。</p> <p>まずは、地域移行の制度を簡単に御説明させていただきます。</p> <p>地域移行支援とは、長期入院・施設入所している方が、独り暮らしやグループホーム、家族と共に住むなど、必要な支援を受けながら、自分が望む自分らしい暮らしを地域の中で実現することです。そして、地域に戻っていくサポートをする制度が地域移行支援です。</p> <p>地域定着支援とは、地域で独り暮らしなどをされている障害のある方が、自ら選んだ地域での暮らしを安心して続けていけるよう、困ったときにすぐサポートを受けられる制度を地域定着支援といいます。</p> <p>今日の資料として、地域移行のリーフレットを置いています。持ち帰ってゆっくり読んでいただいて、必要な方がいれば、御紹介していただければと思います。</p> <p>続いて、地域移行を進めるときの課題ですが、1つ目、生活の場の確保の問題があります。バリアフリーの住宅が少なかったり、家主さんの理解がないと貸してもらいにくい現状や、また、実際、グループホームが少ないです。</p> <p>2つ目に、社会資源やサービス、支援者の不足があります。御本人に必要な支援が十分に確保できない、例えばヘルパーさんなどの最近では現場での支援者の不足や必ずしも本人が希望する支給決定になるとは限らない場合もあると聞いてい</p>
----------------------	--

	<p>ます。また、地域移行をした当初はうまく対応できていても、支援者が異動になったり、退職したり、代わることで対応が難しくなっていく場合もあります。</p> <p>この資料を作成後に入所施設部会で行ったグループワークでは、そもそもどのような社会資源があるのか、どのようなサービスが受けられるか分からないという情報不足の課題が多く挙がりました。</p> <p>3つ目の課題として、家族や地域住民の理解が得られにくいということです。家族が施設を出ることに反対する場合があります。せっかく施設に入って安心なのに、なぜ施設から出ないといけないのか、また、一度地域移行ということでチャレンジしてしまうと、うまく行かなかった場合、また同じところに戻ることができないという不安があります。ほかにもグループホームを建てる時に地域の方の同意がもらえないことがあるといったことも聞きます。また、地域の方が、障害のある人に対してどのように接したらいいか分からないとも多く聞かれます。</p> <p>これらの課題に対しての取組として、1つ目、地域への働きかけが必要なのではないか、これらに対してセーフティネット会議などで働きかけや子どもたちへ福祉や障害理解の学習などです。</p> <p>2つ目に、病院・入所施設での啓発。地域移行・地域定着という制度そのものではなく、地域での暮らし方についてイメージができるよう具体的に伝えていく。</p> <p>また3つ目に、多職種連携として、関係機関が個々に支援するのではなく、つながり、連携して支援体制が取れることで安心して暮らしていけると考えます。</p> <p>いろいろと課題や取組内容をお話しさせていただきました。今回、発表の機会をいただき、地域移行について知っていただくとともに、地域移行を今後進めるに当たって、これらお話しさせていただいた取組についての御助言や、またほかにもこんなことができるよ、こういうことを取り組んでみたらどうかなどということがあれば、御助言、お知恵をいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
藤岡副会長	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>ただいまの報告につきまして、御意見や御質問などございましたら手を挙げていただけたらと思います。</p>
	<p>三浦委員、お願いします。</p>
三浦委員	<p>市民委員の三浦です。よろしくお願いします。</p>
	<p>地域移行・定着で独り暮らしをされたという方も多数いらっしゃると思うんですが、昨今のこのコロナ感染が非常に問題になっていると思うんです。利用者の方が</p>

	<p>コロナ感染されて、地域定着のこの支援の中で、ああ、こういうふうをサポートできたという具体的な何かありましたらお聞かせいただきたいというのが1点です。</p> <p>それと2点目が、子どもたちへの福祉や障害理解の学習等ということで取組、何か具体的に考えておられるのかなというのをお聞かせいただきたいと思います。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>2つ質問がありまして、独り暮らしをされている方とか、今コロナ禍で大変な思いをされている方いるんですけれども、例えばこのようなサポートをしようまくいっているとか、どんなサポートがあればいいとか、必要だなと思うようなこととかですね。</p>
<p>三浦委員</p>	<p>実際にコロナ感染された方が保健所からお電話がかかってきたりしていて、なかなかうまく答えられない利用者の方もいらっしゃいますよね。そのときにどなたが代弁者というか、身近なサポートを、どういう薬を飲んでいるとか割と細かく聞かれることがあると思うんですけれど、そこら辺、どうされていたのかなというのが具体的にあれば、また今後の参考になるかと思うんです。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>そうすると、間部さん、答えられますか。相談員の立場としていかがでしょうか。</p>
<p>事務局（ひまわり・間部氏）</p>	<p>実際に、地域移行を使って病院から退院された方の事例が、去年初めて1例あったということで聞いています。</p> <p>地域移行を使う醍醐味というか、本当に入院しながら体験の機会をたくさん取れるというのが地域移行のいいところなんですけれども、コロナ禍はそれがなかなか難しい、出たり入ったりというのがなかなかできないというところで、病院の方が一緒に外出に同行してくれたり、病院の中での話合いを重ねたり、また、相談員が地域の様子をビデオで撮ってそれを報告したりという形で聞いています。</p> <p>実際に退院された方で、コロナ感染でうまく話せなくて、どう対処したかというお話までは聞けていないんですけれども、相談員がついてくださったり、精神の方だったら訪問看護さんに来ていただいたりというお話は聞いています。</p> <p>なので、独りぼっちで退院するというのではなく、きちっと、もし何かがあったらどうしましょうという、そのクライシスプランというのも立てて退院したという話も聞きます。</p> <p>あともう一つ、子どもたちへの取組。これは、部会としてこういった形で取り組むというのではないんですけれども、ちょうど社協さんが来てくださっていて、言っていた</p>

<p>藤岡副会長</p>	<p>だくほうがいいのかしら。お願いします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>社協さんでされている取組とか、もしありましたら、教えていただけたらと思います。</p> <p>急に振ってすみません。</p>
<p>福永委員</p>	<p>茨木市社会福祉協議会の福永です。</p> <p>地域定着部会のほうに社協も参加させていただいてまして、日頃から意見交換させていただいている中で、子どもたちへの福祉の学習というところで、当面、小学校・中学校を対象。小学校の3年生が、総合の時間という形で福祉を学びたいということで、例えば車椅子の体験やアイマスクの体験という形で、その当事者の方を理解するというところで、そういう体験授業という依頼をいただくことが多くあります。</p> <p>その中で、例えば車椅子は大変だなとか、目の見えないということは大変だなという、そういう偏った福祉観を持たないように、そういう方もこういうことができるんだよというところをやはり伝えたい、いろんな多様性を認めるというところで、障害の事業者と協力をさせていただいて、当事者の方と一緒に学校に行って、ちょっとスポーツをやってみたりとか、当事者の方もこういうふうに楽しめるんだよと、でもちょっとこういうところを助けてほしいんだよねというところを、実際肌で感じてもらうという、そういう試みを始めています。</p> <p>以前は体験だけで終わっていたんですけども、当事者の方との出会い、その当事者の方が一番いいのはその地域で暮らしているというところを子どもたちに知ってもらえるように、そういう働きかけをしています。</p> <p>学校のほうもやはり授業をやりたいんですけど、何をやっていいか分からないという先生もいれば、こういうことをやってほしいという先生もいます。社協としては、その辺の当事者の思いであったりとか、障害を正しく理解するというところをちょっと意識して、じゃあ、こういうふうにやっていきたいと思いますという形で実施させていただいております。</p> <p>あと、地域の働きかけというところでは、我々社協のほうは福祉委員さんであったりとか、民生委員さんとのつながりもありますので、そこで研修をやりたいというところで、研修会などで実際にそのグループホームで生活されている方のDVDを見ていただいたりとか、その後も障害の事業者とも連携して、そういう地域の方がそう</p>

いった方々を見守るという体制づくり、なかなか、いきなり広がってはいかないのですけれども、そういうところを広げていきたいなというところで、福祉委員会でも、福祉委員さんというのは地域のボランティアの皆さんで、地域の福祉のために活動していただいている方々なんですけれども、研修でどんなテーマがいいかなという相談を受けることもありますので、またこういう部会の方と連携して今後もどんどん働きかけていきたいなと思っています。

あと、さっきのヘルプマークの話があったんですけど、このアンケートの中で、学校で教えたらいんじゃないかなという意見もありました。このヘルプマークってなかなか難しくて、アンケートの中で、つけることに抵抗があるという方がいたりとか、声をかけてほしくないよという方がいたりとか、いろんな方がいると思うんですけど、その辺も学校の授業でこのヘルプマークの授業があるのかちょっと分からないんですけど、そういう福祉教育という形で社協も学校に行くことがありますので、こういうところでそのヘルプマークの正しい理解、やはり小さいときから知っておくということがすごく大切だなと思っているんで、実際子どもさんでそういうこだわりの行動があったりする方がいて、地域で見かけたときにどういうふうに対応したらいいのかなというところも、テーマじゃないですけど、そういうことを働きかけることもできるんじゃないかなというふうに思いました。

地域移行のパンフレットの中で、施設から地域に帰られるときの課題の中で、やはりそのお金の管理というところってすごく大切かなと思っています。茨木社協で日常生活自立支援事業という事業を実施しておりまして、これは知的障害とか精神障害、あとは認知症のために御自身で物事の判断が苦手になった方の福祉サービスの利用援助という形で、その方のどうしたいかというのをサポートする事業をやっています。その中で、今93名ぐらいの利用者さんがいらっしゃるんですけども、やはり地域移行の中でこのお金の管理というのはすごく大切になってくるかなと思っていますので、そういうところで連携ができるのかなと思いますし、また御相談いただけたらなと思っています。ただ、この事業、日常生活自立支援事業、成年後見と違って、できないことも多くありまして、本当にこの「日常」がいいのか、成年後見がいいのか、ほかの支援があつての「日常」がないと「日常」の事業が進まないこともありますので、そういうことも含めて、このパンフレットを見させていただいて思いましたので、よろしくをお願いします。

すみません、ちょっと長くなりました。ありがとうございます。

藤岡副会長

ありがとうございます。

	<p>三浦委員、お願いします。</p>
<p>三浦委員</p>	<p>学習ということで、昨今、発達障害の方の割合が報道されておりますが、この子どもたちへというのは、どれぐらいの年齢を意味しているのか、中学生ぐらいになりますとやはり大分理解度も上がってくるかと思しますので、統合失調症を発病される方が意外に中学生ぐらいで発病されたという方を結構聞くんですよ。そのときにどんな病気か分からないけど、何かとても不安だったというようなことも聞きますので、できれば今後、発達障害でありますとか、統合失調症の病気の学習というか、何か取り組んでいただけるような方向でお考えいただけたらなと思しますので、よろしくお願いします。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>あと私も事前をお願いしていたこともあるので、支援学校の天野先生、学校で何かこの子どもたちに、暮らしの面であったり、卒業後、進路指導や通所先とかを決めることがメインだったりするかもしれないんですけど、通所先だけじゃなくて、暮らしの面でグループホームであったりとか、サービスであったりとか、先ほども情報不足というのがあったと思うんですけども、そういうことって子どもたち、生徒さんに何か取組としてされたりしていたら教えていただきたいんですが、いかがでしょうか。</p>
<p>天野委員</p>	<p>本校のほうですけれども、子どもたちは医療的ケアをしているような子どもたちもいますし、それから様々な支援を受けながら地域で暮らす子どもたちもいますし、もちろん、自分で企業就労などをして社会的自立をしていく生徒たちもいて、幅広いので、一概にこうとは言えず、それぞれに合わせた形での暮らしというのを目指していくところではあります。今、御質問にあったようなところでいうと、卒業後に利用できるサービスについてどんなものがあるのかとか、ちょうどパンフレットに書かれてあるようなことなんですけれども、どこに相談に行ったらいいのかなというものの勉強であったりとか、今、お金の管理すごい大事ですよという話をさせていただいたんですけど、結構お金の管理のところをつまづくこともあるので、これぐらいお給料をもらったならこのぐらいは家賃に使って、このぐらいは食べ物に使って、このぐらいは自分の好きなことに使ってとか、そういうお金の学習もすごく大事なことで、そういう取組ももちろんやっているところではあります。</p> <p>生徒一人ひとりがそうやって学習するものもありますけれども、やっぱり地域で生きていくということ、人とのつながりがすごく大事だということがありますので、学</p>

	<p>校のほうに福井地区の方々に来ていただいて、ポッチャで交流したりということで、子どもたちのことを知っていただいたりということとか、あと隣の福井高校の生徒さんも来てくださるんですけども、コロナでなかなか行えず途絶えていた部分もあったんですが、今年度は再開することができて、ポッチャで交流するであったりとか、ダンスで交流するであったりとかということで、やっぱり実際にそうやって対面して触れ合う中で本校の生徒がこんなことに困っているとか、こんなところは一緒にできるなということを実感していただけると、何かそういう体験があると、お互いにつながっていけるのかなと思っています。そこら辺をすごく大事にしたいなと思っています。</p> <p>このパンフレット、すごくいいなと思って拝見させていただきました。最後の3番の下のところ、地域移行も安心して生活できますよって幾つか仕事のこととか、お金とか、好きなこととかいろいろ書いてくださっているんですが、まさにこの辺りでとても困っている子どもたち、卒業生が多いなと思いました。なので、こういうところで相談できるよ、こういうことサポートしますよということが書かれてあるのがすごく心強いなと思いました。ありがとうございます。</p>
藤岡副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかに御意見とか御質問とかありますでしょうか。</p> <p>森脇委員、お願いします。</p>
森脇委員	<p>すみません、森脇です。</p> <p>先ほどの議題にもあった地域生活支援プロジェクトと地域移行・地域定着部会、この議題は共通の問題があって、やっぱり地域での受入先の少なさが、解消すればうまく回ることが多いんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>これから、設立しようというふうに思われている事業者さんもおられると思います。市として、そういう事業者さんにどのようなサポートや情報提供をされているのか、されていないのか、もしこのグループホームなど受入先を増やすことをいつまでに解消できたらいいと思われているのかを聞いてみたいと思います。</p>
藤岡副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>事務局、お願いします。</p>
事務局（障害福祉課井上課）	<p>障害福祉課長の井上でございます。座ってお話しさせていただきます。</p> <p>先ほどの御質問ですけれども、まず地域の受入先への市の援助でございます。</p>

長)	<p>市でつくっている制度としては、グループホームの開設補助金であったり、あるいは、生活介護、短期入所、グループホームで重度の方のケアをされている事業所に対する補助金等のメニューがございまして、こちらはホームページ等での周知を図っているところでございます。</p> <p>あと、この地域の受入先の整備ですけれども、こちらは障害福祉計画等の中でこれらのそれぞれのサービスを使われる方がどれぐらいの数で推移していくだろうかという見込みを掲載させていただくとともに、その整備等についての考えを障害福祉計画の中でお示しをしています。</p> <p>一方で、その何か所、整備をするという目標、そのサービスごとの目標設定ということはいたしておりませんで、その推移の推計とともに施策を講じていくという建てつけになっております。</p>
藤岡副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
森脇委員	<p>この2つの、この中のことだけじゃなくて、障害がある人もその保護者も高齢化していくという問題がこれからあって、グループホームだったりとか家族以外で受け入れてくださるところが必要になってくると思います。そのことも一緒に含めて考えていただけたらありがたいと思っています。よろしくお願いします。</p>
藤岡副会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>先ほどもおっしゃっていたように地域生活支援拠点の機能の中に、地域移行のための体験の場の提供というのがありますので、今後うまく連携しながら部会もやっていたらいいのかなと思います。</p> <p>ほかに御意見、御質問ありませんか。</p> <p>ありがとうございます。では、次の議題に移らせていただきます。</p> <p>最後、議題の⑤です。「福祉総合相談課報告」です。事務局から、御説明お願いいたします。</p>
事務局（福祉総合相談課名越係長）	<p>福祉総合相談課名越です。</p> <p>地区保健福祉センターの運営状況につきまして御説明いたします。</p> <p>資料33ページをご覧ください。</p> <p>まず最初に、地区保健福祉センターの概要と関係機関の連携について御説明い</p>

たします。

住民の方々から「身近な場所に1つの相談窓口で専門知識を持った相談員に相談したい」との声があったため、市内5か所、東・西・南・北・中央に設置を進めています。

35、36ページに周知用の案内を添付しておりますので、そちらをご覧ください。添付資料にルビがない点は、御了承ください。

案内の写真にあるとおり、現在、東・西・南圏域に地区保健福祉センターを設置しております。今後、令和5年度に中央圏域、令和6年度以降に北圏域での開設を予定しております。

地区保健福祉センターでは、35ページの一番下に記載している様々な専門職が今まで以上に連携し、支援を行う体制を構築するため、定期的に情報交換を行う機会や、支援が必要な人の支援方法などを検討する会議を行っております。

ページ戻りまして、33ページの下、東保健福祉センターの振り返りについてをご覧ください。

令和3年度に開設しました東保健福祉センターが地域住民からどのように認識されているかなどを把握するため、民生委員や地区福祉委員、東保健福祉センターで支援を行っている関係機関に聞き取りを行っております。

次のページにいただいた意見の一部を記載しております。

まず、評価された点としまして、支援者間の連携がしやすくなった、保健師が地域の集まりで新型コロナウイルスの話など気になっていることを説明してくれて助かったとの意見がありました。

続きまして、改善が必要な点としましては、周知不足という意見が寄せられております。具体的な活動内容が分からない、保健師が子どもの相談を受けていることを周知したほうがよい、地域住民や団体なども巻き込んだイベントを行ってはどうかとの意見がありました。

以上の意見を踏まえ、引き続き評価された点である関係機関が連携を図れる体制を構築するとともに、市職員が地域活動に参加し、地域住民のニーズ把握に努めてまいります。

また、改善が必要な点である周知につきましては、様々な場で地区保健福祉センターの役割や活動内容などを積極的に周知するとともに、より魅力的なセンターとなるよう活動を行ってまいります。

報告は以上になります。

藤岡副会長	<p>ありがとうございます。東保健福祉センターの振り返りを中心に各地区保健福祉センターの説明をしていただきました。</p> <p>ただいまの説明について、御意見とか御質問などおありの方はいらっしゃいますでしょうか。手を挙げていただけたらと思います。お願いします。</p> <p>辻委員、お願いします。</p>
辻委員	<p>辻です。</p> <p>まだ私の北部はできていないんですが、その場合、家の近くのセンターに行けばいいですか。</p>
藤岡副会長	<p>そうですね。事務局、お願いします。</p>
事務局（福祉総合相談課名越係長）	<p>北圏域につきまして、今、センターは設置されておられませんけれども、担当の障害者相談支援センターがありますので、そちらに御相談いただければと思います。</p>
藤岡副会長	<p>来年の4月に中央と北圏域でできるということですね。</p>
事務局（福祉総合相談課名越係長）	<p>すみません、北圏域は6年度以降です。</p>
藤岡副会長	<p>すみません。来年の4月に中央ですね。それまでは、今の自分の地域の相談支援センターにということです。</p> <p>ほかに御意見や御質問はありますか。</p> <p>では、特になければ以上とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>これで当初予定しておりました議題の案件は、全て終了いたしました。この議題以外にこの全体会で挙げておきたい議題などがおありの方はいらっしゃいませんでしょうか。</p> <p>お願いいたします。</p>
平野人権・男女共生課参事	<p>人権・男女共生課の平野でございます。</p> <p>よろしいでしょうか。お時間頂戴いたします。座ったままでお話しさせていただきます。</p> <p>私からは、お手元にお配りしております「おにも見にクルアート展」、こちらを御案</p>

<p>藤岡副会長</p>	<p>内させていただきますと思っています。</p> <p>こちらのアート展なんですけれども、毎年12月3日からの1週間の障害者週間に合わせて、人権それから障害者支援、それぞれの立場から各々で開催をしておりますアート展、手作り作品展等、今年度から1つにつないで周知するというので、より多くの方に関心を持っていただけるようにということで実施をしております。</p> <p>それぞれ個性あふれる作品が集まっておりますので、思わず鬼も見に来るということで「おにクル」とかけて総称するタイトルとさせていただきます。</p> <p>日程は、こちらにあるとおり、12月1日から茨木市立ギャラリーで開催をするダイバーシティアート展「創楽(SORA)」からスタートし2月19日まで、全8会場で開催をしております。</p> <p>特に人権のほうですので、ダイバーシティアート展についての宣伝になるんですけれども、3つのいのち・愛・ゆめセンターに接点のある方にお声かけをさせていただいて、集まった絵画や陶芸・手芸・工芸等の作品を展示をしております。障害のある方、ない方、それから年齢、国籍などを問わずに、様々な方に御協力をいただいております。</p> <p>12月1日の市立ギャラリーから沢良宜、総持寺、豊川と、いのち・愛・ゆめセンターを巡回して開催をしております。</p> <p>今日現在、総持寺いのち・愛・ゆめセンターで開催をしております。センターごとに一部作品を入れ替えて楽しんでいただいているところです。障害者の手作り作品展スペシャルは既に市役所で終了しておりますけれども、今後、アールブリュット展、ちかつアートフェスタまで引き続いて開催をしております。</p> <p>それから、またより多くの方に複数の会場に足を運んでいただけるようにということで、スタンプラリーも実施しております。2か所以上でスタンプを押していただければ、会場に展示しているアート作品の絵柄の入ったオリジナル缶バッジをお渡ししております。今日ちょっと持ってきているので、また見ていただければと思います。とてもすてきな缶バッジですので、会場に行ってください、スタンプを集めていただければ、お渡しさせていただきます。ぜひ各会場へお足をお運びいただきお気に入りの作品と出会っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>なかなかこれまで単発でしかこういうアート展ってしている機会がなかったんですけれども、こういうふうにとまとめたチラシをいただくと大変助かります。うれしい</p>
--------------	---

<p>森脇委員</p>	<p>です。ありがとうございます。</p> <p>ほかにありますか。</p> <p>森脇委員、お願いします。</p> <p>すみません、森脇です。</p> <p>先ほどの「おにも見にクルアート展」についてなんですけれども、うちの息子の作品も展示をさせてもらっているんです。すごく趣旨もよくて、障害のある人、ない人、国籍、性別に関係なく誰でも参加できるアート展というふうに書かれておまして、ほんとハードルが低いアート展なので、支援学校のママ友にこういうアート展があるよと伝えると、来年、うちの子どもも作品出させてもらっていいやろうかみたいなことを言われて関心を持たれました。ですので、すごくいい取組だなと思っておりまして、来年度以降も開催をしていただきたいと思っておりますし、来年はこのアート展に支援学校の生徒さんも一部枠をいただいて、展示をしていただけたらとてもありがたいなというふうに思っています。</p> <p>そして、ちょっと長くなるんですけども、来年の秋には、市民会館できますよね。その市民会館で今回のようなアートイベントや、コロナ前までそれぞれの福祉事業所さんで行われていたイベント、そのような催しをそれぞれの事業所さんでやるのではなくて、皆さん集まって開催していただけたらとてもありがたいなというふうに思っています。</p> <p>それは、うちの子どもは重度の障害があるんですけども、ライフイベントがとても少ないと言われてます。ですので、毎年運動会とか文化祭とかそういうことって、健常のお子さんっていろんな形で取り組んで楽しむ機会がありますよね。ですので、こういう形で市民会館でみんなで楽しめるイベントができたらいいなというふうに思っております。それはやっぱり地域の方も障害がある家族だけじゃなくて、皆さんと一緒に楽しめる市民会館であってほしいなと思いますので、そこをちょっと伝えさせていただきたいなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>ありがとうございます。何かこういうのが毎年の恒例行事になって、何月のやつを目指して作品作ろうとか、みんなでなっていくたらいいかなと思いました。</p> <p>そうですね。ありがとうございます。</p> <p>その他ありませんか。</p> <p>どうぞ。</p>

<p>事務局（障害福祉課井上課長）</p>	<p>せっかく御意見いただきましたので、障害福祉課から現状をお伝えしておきます。今、おっしゃってくださった新市民会館「おにクル」の活用です。今調整段階ではあるんですけれども、ちょうどおにクルの開館の直後が障害者週間でございますので、今企画を調整しております、来年、皆様の目を楽しませるイベントができたかと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>藤岡副会長</p>	<p>楽しみにしています。ありがとうございます。</p> <p>ちょっと先ほど議題でありましたヘルプマークなんですが、実物が届きまして、このような形で配られています。必要な方、もしいらっしゃったら、帰りにでも南館2階の障害福祉課に寄っていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>ほか何か議題、ございますでしょうか。これだけは言っておきたい等ありませんか。</p> <p>ありがとうございます。では議題は以上にさせていただきます。</p> <p>最後に副会長としての講評を申し上げないといけないということですので、一言感想を申し上げたいと思います。</p> <p>今日、いきなりの司会ということで大分緊張していて不安もすごく大きかったんですけど、皆さんが積極的に意見を言うてくださって、とても助かりました。本当に拙い司会で失礼もあったと思うんですが、この場を借りておわび申し上げます。今後も自立支援協議会の活動にいろいろと御協力をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>では事務局にお返しします。お願いします。</p>
<p>事務局（藍野・瀧山氏）</p>	<p>藤岡副会長、ありがとうございました。</p> <p>最後に森岡福祉部長より、閉会の御挨拶をさせていただきます。</p> <p>森岡部長、よろしく願いします。</p>
<p>事務局（福祉部森岡部長）</p>	<p>福祉部長の森岡でございます。本日は貴重な御意見をいただきまして、また、活発な御協議をいただきましてありがとうございました。</p> <p>委員の皆様には、今回が任期期間中の最後の全体会ということでございますので、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様には昨年の5月の就任後、令和3年度・4年度と2年間にかけまして貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。</p>

<p>事務局（藍野・瀧山氏）</p>	<p> 昨年の6月の第1回全体会は、新型コロナの関係で書面開催ということもございました、その後の全体会でもコロナ対策ということで非常に制限のある中、皆様には御不便をおかけいたしましたけれども、その中でも非常に活発に御協議をいただきましたこと、改めましてお礼を申し上げます。ありがとうございました。 </p> <p> 今後もこの茨木市障害者地域自立支援協議会におきましては、障害のある方が地域で安心して暮らせる社会の実現ということに向かいまして、各分野の御意見をいただきながら課題を整理し、解決に向けて取り組んでまいりたいと考えております。また引き続きお力添えをいただきますようお願いを申し上げます。 </p> <p> 簡単ではございますが、最後の御挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。 </p> <p> 協議会委員の皆様、オブザーバーとして御出席いただきました皆様方におかれましては、本日は長時間にわたり、ありがとうございました。 </p> <p> 会議録につきましては、後日、御確認いただいた後、福祉総合相談課のホームページに掲載する予定です。 </p> <p> また、本協議会は、令和4年度第1回茨木市障害者地域自立支援協議会全体会において御報告させていただきましたとおり、福岡茨木市長より諮問を受けております。答申につきましては、第1回・第2回の会議録とさせていただきますので、よろしく願いいたします。 </p> <p> それでは、これで令和4年度第2回障害者地域自立支援協議会全体会を終了いたします。 </p> <p> 本日は、ありがとうございました。 </p>
--------------------	---